

課題整理総括表を活用しよう

昴指定居宅介護支援事業所

○納田 正敏 光田 奈津子 佐藤 緑
大和 恭子 三好 みゆき 藤田 耕資
宮繁 知華子

【はじめに】

介護支援専門員は介護保険制度を効果的及び効率的に運営していくため、身体状況や住環境の課題を分析し、心身の状態に適したケアプランを立てると共に必要なサービスを受ける事が出来るよう、ご利用者とサービス提供事業所及び市町村との連絡調整を行っている。

今後さらに高齢者のみの世帯や、一人暮らしの高齢者の増加が進み、地域全体で支援を必要とする高齢者を支える必要性も高まるなか、これまでも増して介護支援専門員の資質やケアマネジメントの質の向上に対する期待も大きくなっている。

【現状と課題】

介護支援専門員の資質やケアマネジメントの質の向上に対する期待も大きくなっているが、「適切なアセスメント（課題把握）が必ずしも十分ではない。」「サービス担当者会議における多職種協働が十分に機能していない。」といった課題が指摘されている。

また、ケアプランの長期目標・短期目標の文言が画一的になっているという現状がある。

【取り組み】

ご利用者の状態を把握し、情報の整理・分析等を通じて課題を導き出した過程を多職種

協働の場面等で適切に説明し、情報共有が出来る事を目的として作成された「課題整理総括表」を各ケアマネで作成する。

作成した課題総括表をサービス担当者会議・事例検討会などケアマネジメントの課程で実際に活用していただくことにより、ケアマネジャーの資質及びケアマネジメントの質の向上を目指す。

【結果と考察】

アセスメントで得られた情報をもとに課題整理総括表を作成し、ご利用者・ご家族・多職種で日常生活の障害要因や機能の改善・悪化の可能性、今後生活の見通しなどの分析・検討を行う事でそのケースが抱える課題やリスクを再確認し課題解決のため必要な新たなサービス導入の検討や、それぞれが行う支援の方針や内容を決める事が出来た。

【まとめ】

生活における課題やリスクを介護支援専門員だけでなくご利用者・ご家族・多職種で導き出す事で、より深い連携を取りながら在宅生活を支援する事が出来る事が期待される。

また、画一的なケアプランでなくそれぞれの想いが反映されたケアプランを作成する事が出来た。